北海道消防学校 新校舎の概要

令和６年７月
北海道消防学校

消防学校の歴史

＜概要＞

消防組織法に基づき都道府県が設置する消防職員・消防団員の教育訓練を行う施設で、毎年初任課程や専門課程を実施し、年間約1,000人が受講。

＜歴史＞

S23年10月　札幌市中央区(北海道消防会館の一部を仮校舎)に開校
S28年　8月　札幌市東区に新築移転
S40年12月　入校生の増加により、現在地(江別市)に新築移転
　～ 現在　寮や教育訓練施設の整備を適宜実施

＜校舎改築の検討経過＞

【H29年11月】校舎の耐震化診断の結果「改築が妥当」と結論付け

【R元年 ① 7/24 ② 8/23 ③ 10/23】

「北海道消防学校教育訓練等のあり方検討会」を設置し施設整備等の方向性も検討

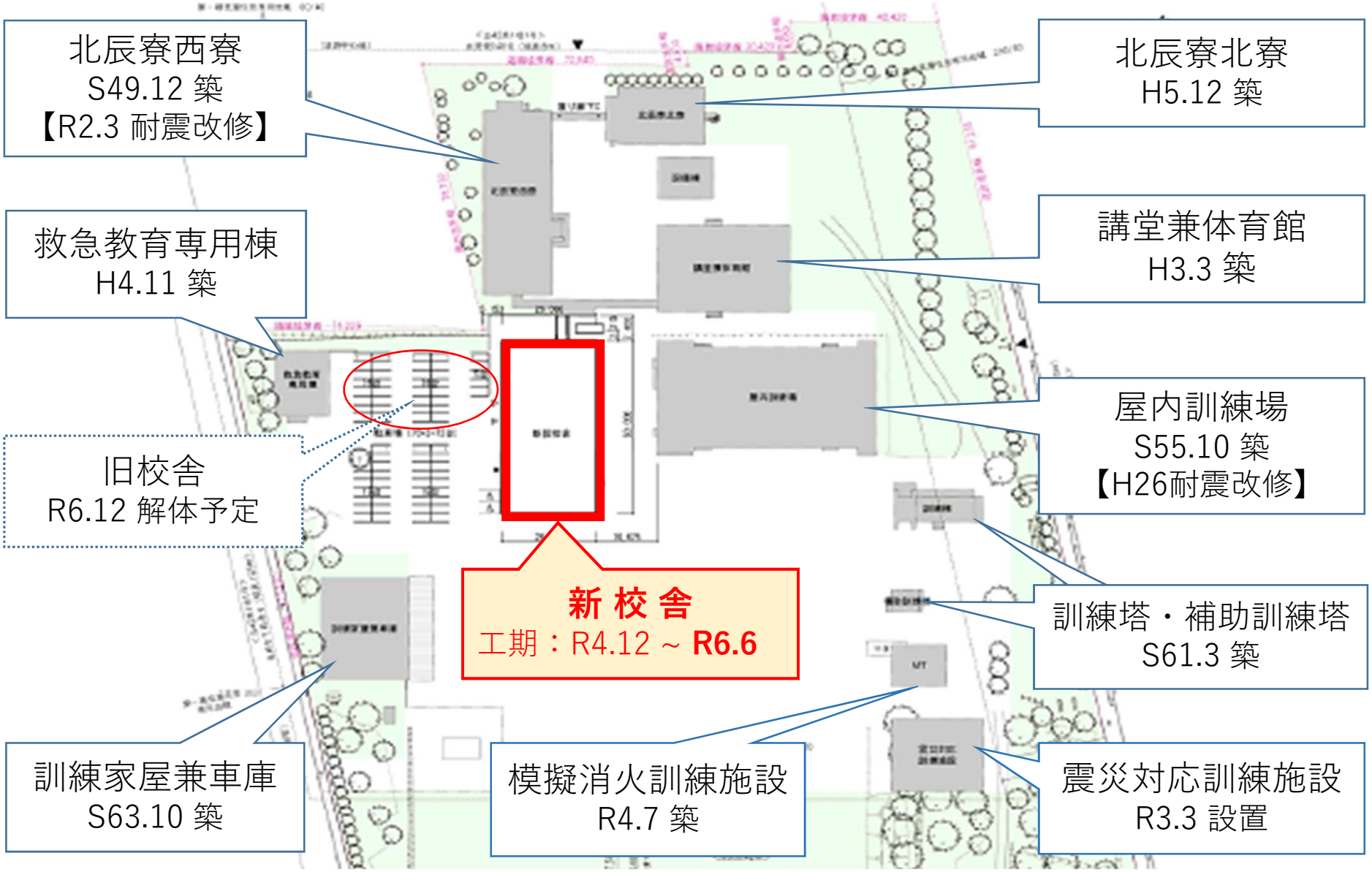
～あり方検討会委員（11名）～
消防大学校教授、道内主要都市消防本部（６本部)、札幌市防災協会委員、北海道看護大学教授など

検討会での主な意見（施設整備抜粋）

〇訓練施設に関すること
・国が基準で示す消火訓練施設など、実践的な訓練施設を整備すべき
　⇒震災対応訓練施設（R3.3 整備）、模擬消火訓練施設（R4.7 整備）

〇学校校舎に関すること
・講義の効率化を図るため、大教室を整備すべき
・衛生管理上の観点から、防火衣乾燥室を整備すべき
・緊急消防援助隊の拠点としても機能するよう自家発電等を整備すべき
　⇒校舎改修に反映

消防学校全体図（施設整備の経過）



各種訓練施設

講堂兼体育館

入校式などの行事をはじめ、授業などにも利用し、体育館としても使用

救急教育専用棟

実際の救急車、様々な救急・救命用資機材を使用した実習など、実地に対応した授業を行う

屋内訓練場

ロープやはしごを使った救助訓練、雨天時・降雪時の訓練などに使用

訓練塔・補助訓練塔

ビル火災や高所からの救助・救出訓練、消火訓練、ロープを張っての訓練を行う

訓練家屋兼車庫

機器取扱訓練の実施や、訓練用消防車両などを保管

模擬消火訓練施設

プロパンガスにより火災を発生させ、放水の水をセンサーで感知し、火勢を制御する消火訓練システム

震災対応訓練施設

倒壊建物を想定した瓦礫救助訓練など、閉鎖空間における救助訓練を行う

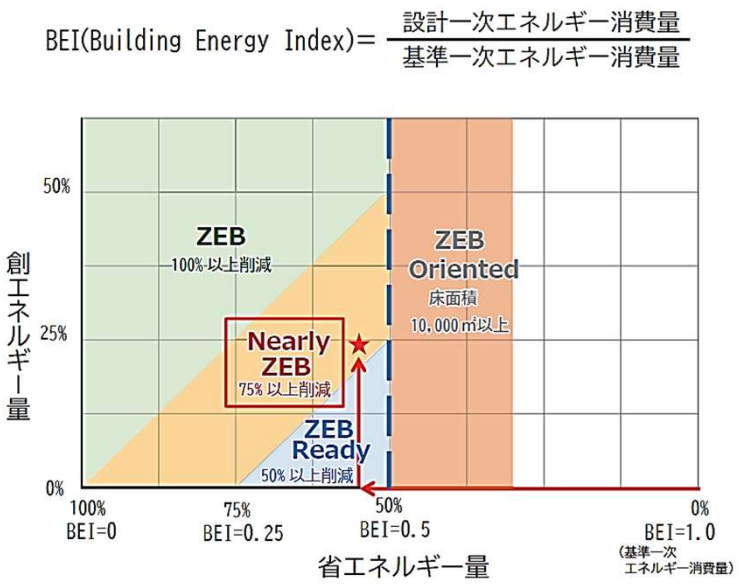
新校舎の特徴

	現校舎	新校舎	特　徴
校舎全体			○道有建築物で初めて<u>NearlyZEB認証取得</u> ○教育訓練を快適に受講できる<u>冷暖房設備を導入</u>
教　室			○講義の効率化や学生の衛生管理上の観点から、最大150名収容可能な<u>大教室</u>や、学生用の<u>防火衣乾燥室を新設</u>
図書室等			○快適な自習と交流環境整備の観点から、図書室機能を兼ねた<u>オープンスペース新設</u> ○<u>道産木材を用いた</u>地域性を感じる内装

NearlyZEB 認証取得　【R5. 3. 17取得】

◇ エアコンやLED照明等効率的な設備の導入
◇ 断熱性能の向上、吹き抜けを利用した自然採光・自然換気の導入による省エネルギー化
◇ 太陽光発電設備（６４ｋＷ）の屋上設置

一次エネルギー消費量を国が定める基準から７９％削減する計画



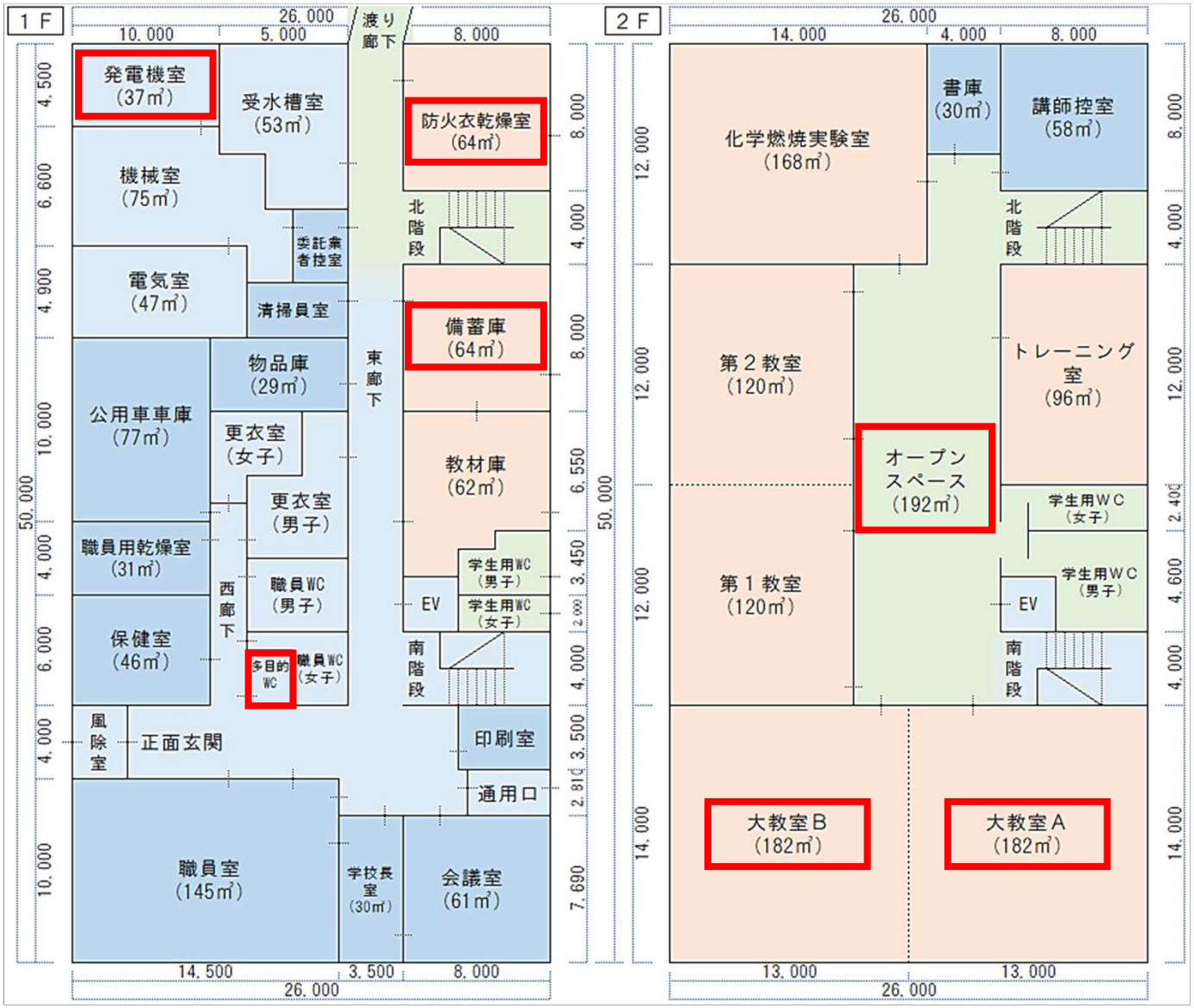
新校舎の間取り

- 教育エリア
- 学生共用部
- 管理エリア
- 管理共用部

新たに導入

※大教室は間仕切りによりＡ・Ｂ２教室として利用可能
(第1・２教室も同様)

※オストメイトも備えた多目的ＷＣを整備



北海道消防学校